

急変時対応

～訪問看護における急変の一つ手前でできること～

一般社団法人 北海道総合在宅ケア事業団

函館訪問看護ステーション

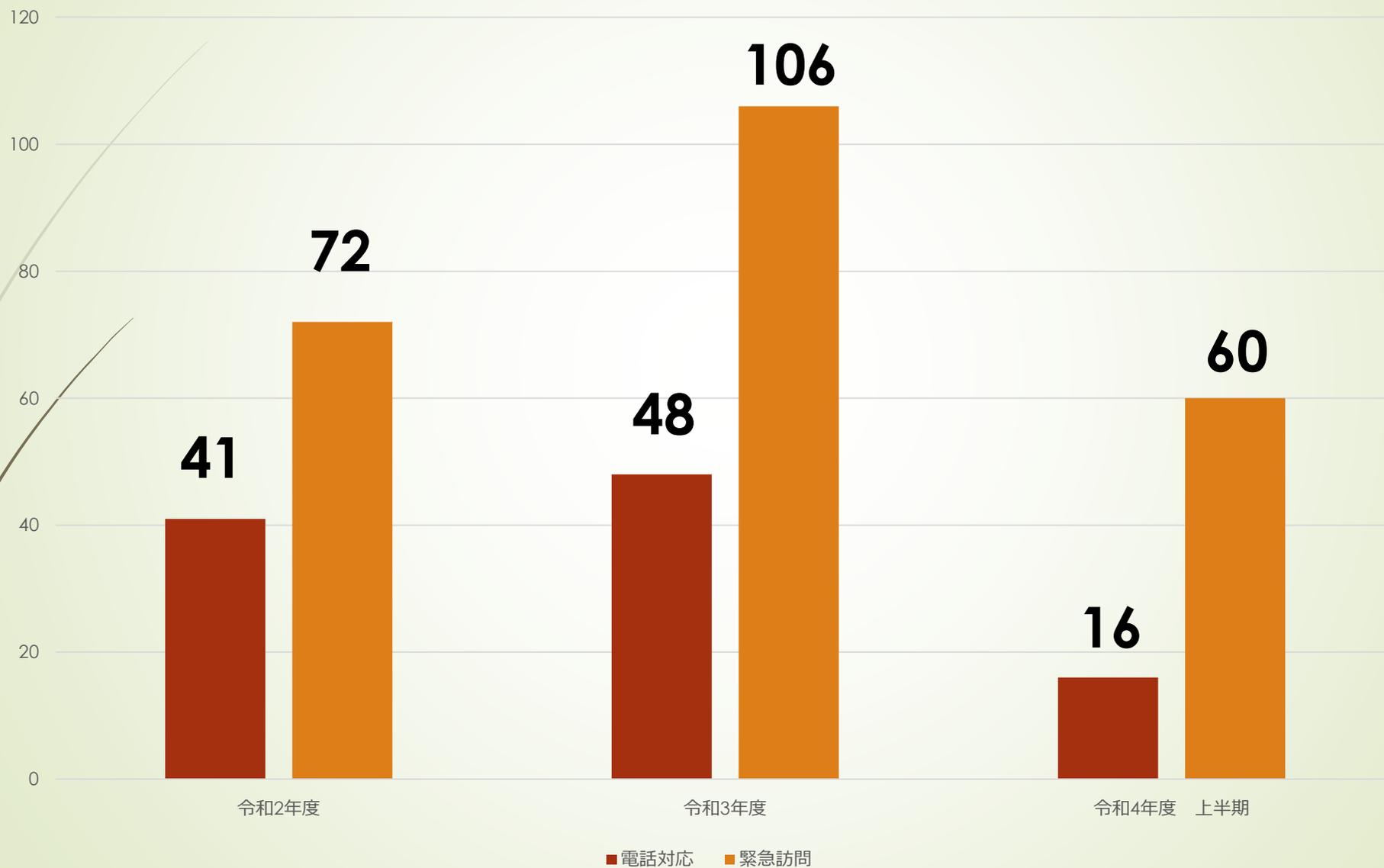
山本 裕美子



本日の内容

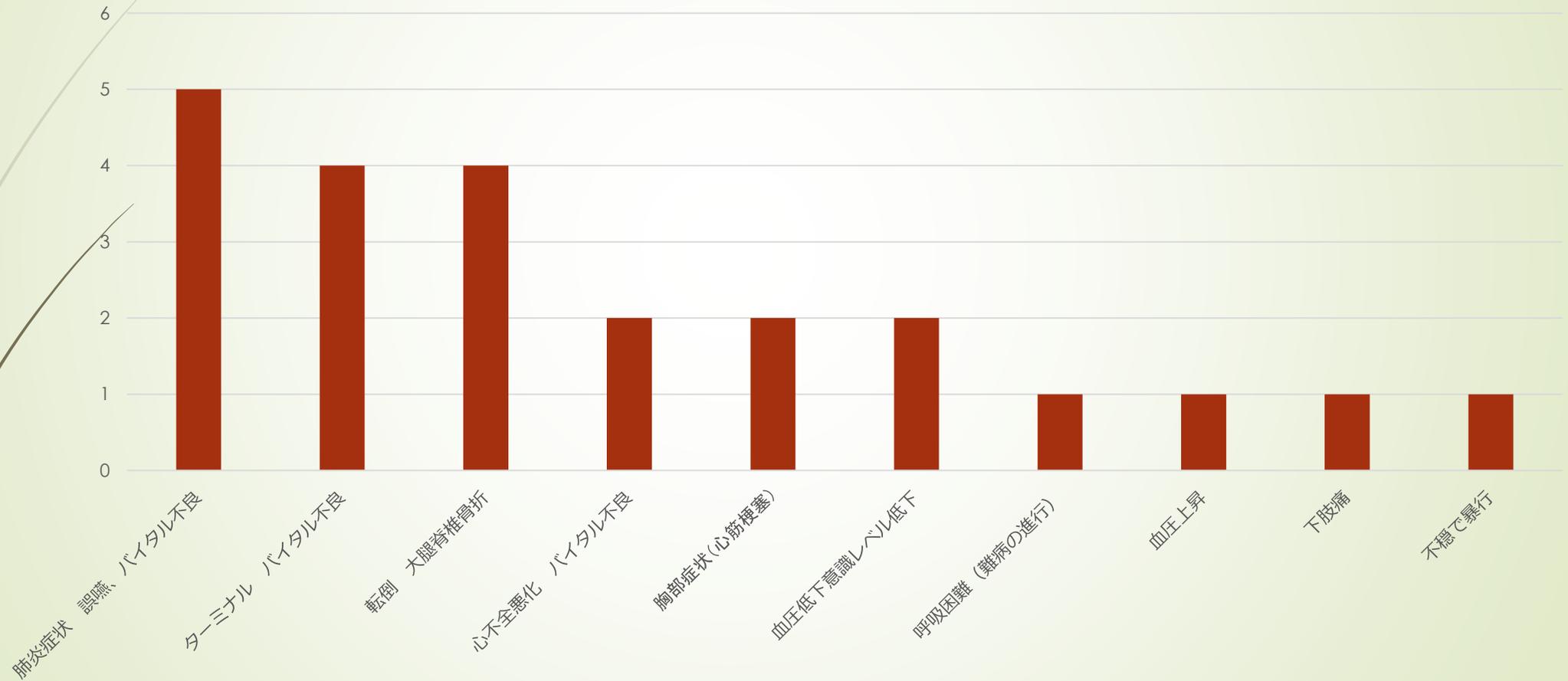
- ▶ 1、緊急訪問の実際
 - ▶ 2、急変の前の気づき
 - ▶ 3、訪問看護が急変を防ぐために心掛けていること
- 

緊急訪問の実際 ①緊急携帯への電話対応と緊急訪問件数

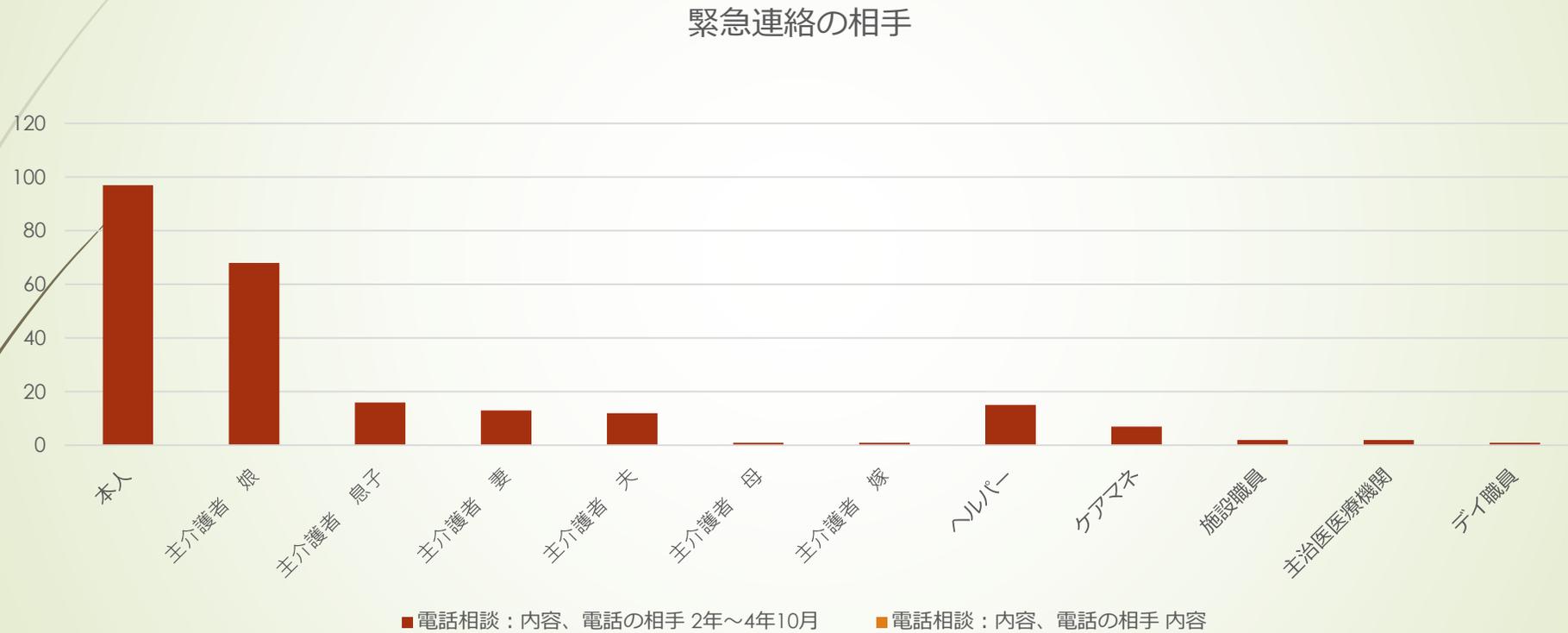


②救急搬送の内訳 (23例)

救急搬送の内訳



③ 誰から緊急連絡が来たか





2 急変の前の気づき

- ▶ いつもと違う
- ▶ あれ、なんか変だ

緊急連絡の内容

- ▶ 便が出ない、動けなくなった、嘔吐、転倒して動けない、バルンが抜けた、食べれない
- ▶ バルンの尿が少ない、血圧が高い、尿漏れている、熱が高い、呼吸が早く苦しそう、
- ▶ パウチから便漏れている、声掛けしても返事が少ない、便に血液が混じっている
- ▶ 酸素飽和度が低下している、点滴滴下がおそい、呼吸がおかしい、痛がっている、
- ▶ 痰が多く心配、ゼイゼイしている、いつもより血圧が低い、脈が100以上ある
- ▶ 具合悪そう、発疹が出ている、痙攣症状がでている、味がしないと言っている、
- ▶ 転倒して出血している、いつものように動けない、腹痛、嘔吐した、血圧80台に低下、
- ▶ バルンが抜けた、呼吸苦しそう、胸が苦しいと言っている、下肢を痛がる、
- ▶ 具合悪いと言っている、めまいすると言っている、

3 訪問看護が急変を防ぐために心がけている事

- ▶ 介護者に何を観察してほしいかを伝える
- ▶ 起こりうる症状を伝えておく。普段と違うときには連絡をもらう、気になる症状がある時はこちらから連絡して様子を聞く
- ▶ 変化が見込まれるときは観察や処置の訪問回数を増やしたり、休みが入る前に訪問しておく
- ▶ なるべく平日、なるべく日中に・・・主治医への報告、受診の可能性のあることを医療機関へ連絡しておく、想定外を想定内に
- ▶ 週末に入る前にできることをやり、物品や対応を備えておく
- ▶ 退院日は可能なら週明けに
- ▶ 約束指示確認（血糖値とインシュリン）バルン交換セットや点滴の予備、導尿や浣腸、解熱剤

生活を整えることの大切さ

- ▶ 食品衛生管理
- ▶ 服薬の観察
- ▶ 寒さ、暑さの調整：寒冷による血管収縮→循環器系への影響
- ▶ 温度、湿度の管理：高齢者の体温調節困難→脱水、熱中症
- ▶ 冬のごみ出し：冠動脈の収縮、凍結路面の転倒
- ▶ 買い物による飲み物、食品の備え：栄養の維持で脱水や栄養状態悪化の予防
- ▶ 灯油の補充 心臓の負荷の予防
- ▶ 利用者は自分でできるからと言ってやってしまうが・・・



まとめ

- ▶ 急変を事前に防ぐことが可能かも
- ▶ 変だな?と思ったらチームに繋ぐ
- ▶ なるべく平日に

ご清聴ありがとうございました